

令和 7（2025）年度 第 16 期とちぎの教育未来塾

第 1 日〔令和 7（2025）年 10 月 11 日（土）〕

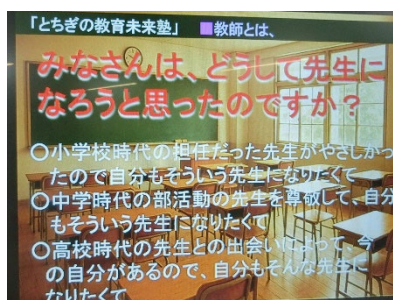
第 16 期生 59 名



開講式

◆開講あいさつ 総合教育センター所長 高野 和泰

「語りあい 学びあい 高めあう」をキャッチフレーズとし、第 16 期「とちぎの教育未来塾」がスタートしました。今年度の「とちぎの教育未来塾」は、全 4 日間の日程で開催いたします。第 1 日は、オンライン（Zoom）により実施しました。開講あいさつでは、未来塾の目的・特徴や研修に臨む心構えについて話がありました。



講話・研究協議

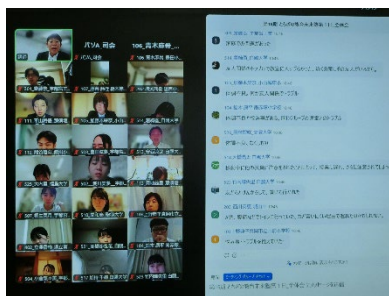
★「語ろう！児童・生徒指導」

栃木県総合教育センター研修部指導主事 関 敦巳

★「語ろう！生徒指導」

栃木県総合教育センター研修部指導主事 伊藤 聡

校種別に分かれて、児童・生徒指導とはどのようなものか、教職員に求められる資質・能力は何か、これからの児童・生徒指導はどうあるべきか、などを学びました。現職の先生方と学生がグループを組んで、ともに語りあい、広い視野で児童・生徒指導を捉える機会となりました。



受講後の声

【現職】

- ◆学年の生徒指導を担当して 3 年目になりますが、改めて大切なことは「自己指導能力の育成」だと理解することができました。真剣に生徒と向き合っていますが、関わる期間には限られているため、生徒が自分の力で自分自身を律することができるようにサポートしていきたいと思います。悪い面に目を向けがちですが、良い面を認め、ほめてあげることが子どもたちとの信頼関係構築、生徒指導の第一歩なのだと再確認することができました。
- ◆学生の方々の意見は抽象的でありつつも意義や生徒指導提要に即した内容が多く、私自身が

実務的なことばかりを考えていたことに気付かされました。大切にしなければいけない、根底の部分の思い出すことができ、教諭としての責任の大きさを再認識することができました。

- ◆生徒指導は、問題行動の対応をすることだけでなく、生徒の成長を支える教育活動であるということを改めて知ることができました。生徒たちが卒業後の社会生活において、自分らしさを表現できるように、継続的な指導や働きかけを行っていきたいと思います。

【学生等】

- ◆児童・生徒指導について、偏った見方や一方的な見方にならないように指導を行うことが大切であると気付くことができました。また、トラブルのみに目を向けるのではなく、授業や行事などあらゆる場面で、児童・生徒が社会で生きていくために必要な力を育むことが重要であるということを話し合いや講話を通して知ることができ、良い学びになりました。
- ◆現職の先生方が実際にどういうことを意識して児童・生徒指導を行っているのかを知ることができて、とても参考になりました。児童・生徒指導は、児童・生徒全員に対して行うものであり、前向きなものだと分かりました。「児童・生徒理解」がとても重要であり、「よくみる」とは、自分が教師になった際には絶対に実行しようと思いました。
- ◆生徒指導というと「問題を起こした生徒に対して指導する」、「他人事」というイメージがありましたが、今回の講話・研究協議を通して「生徒指導は全ての場面で全ての先生が関わっている」ということが分かりました。教職経験がないため内容を理解できるか不安がありましたが、教育現場を想定したケースを実際に考えてみることで、イメージを膨らませることができました。

講話・研究協議

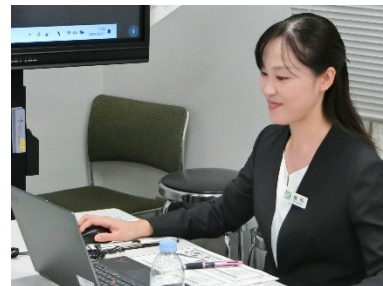
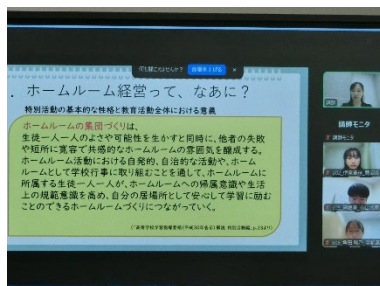
★「学級経営って、なあに？」

栃木県総合教育センター研究調査部指導主事 若色 淑恵

★「H R経営って、なあに？」

栃木県総合教育センター研修部指導主事 青柳真理子

校種別に分かれて、学級・H R経営の基本的な考え方、学級・H R経営の実際の事例などを学びました。こんな学級を目指したい、年度初めにはこんなスタートを意識したいなど、現職の先生方がグループ内でリーダー役となり、活発な意見交換が行われました。



受講後の声

【現職】

- ◆講師の先生の実体験を交えながら、お話しいただいたことで、実際の教室の様子を想像しながら聞くことができました。学級は、子どもたちによって実態も異なりますが、目の前の子どもたちとの関係性をしっかりと確立し、子どもたちと一緒につくっていくという考えが大切だと感じました。
- ◆学級経営は、誰か一人の思いや願いだけでなく、学校や学年の目標、担任や児童・生徒全員の思いを踏まえて行っていくということを再認識することができました。また、学級開きについて、教員の工夫や思いが詰まっていることを改めて感じました。「黄金の三日間」を教員として二度経験し、気の張り詰める大変な時期だと感じていましたが、みなさんとの協議を通して、これからは貴重な時期を楽しもうと思いました。
- ◆H Rが生徒にとって、とても重要な場であることを改めて感じました。教員採用試験に合格し、いずれ担任をもつことになると思うので、その際には、学校行事などを通して、生徒一人ひとりの良さや可能性を認め、伸ばしていくことができるようにしたいと思います。「こ

のクラスでよかった」と生徒に思ってもらえるHR経営をし、生徒と一緒にいい学級をつくりあげていきたいです。

【学生等】

- ◆学級目標を立てることは、予想以上にとても難しかったです。学校の先生になったら、私の思いもしっかり伝え、子どもたちの意見も聴きながら、一緒にクラスをつくっていこう！という気持ちで学級経営をしていきたいです。学級経営は、学校生活を楽しくするための工夫がたくさんできる機会なので、その機会を活かせるようにこれからも学んでいきたいと思います。
- ◆教員の仕事で、授業の次に大切なのが学級経営だと思っているため、今回深く考えることができてとても良かったです。他の方の思いや考えを聞くことができ、共感する部分が多くありました。自分が教員になったときも、自分のクラスだからといって自分の考えのみにとらわれることなく、他の先生方の話も聞きながら、より良い学級を目指していきたいと思いました。
- ◆ホームルーム経営には、自分が想像していたより沢山の目的があることを学ぶことができました。実際に、教諭の方とお話しする機会があり、実際に取り組んでいることを聞くことができ、大変参考になりました。